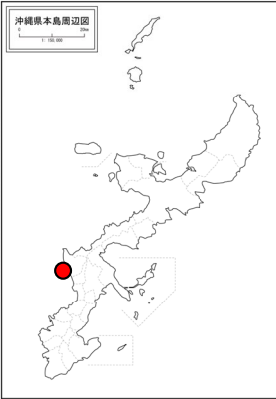


29. 【陸域：直売所、食堂】 荷さばき所との一体的な直売所・食堂の整備：都屋漁港（沖縄県読谷村）

概要

- 都屋漁港は村内唯一の漁港であり、観光スポットや水産業の中心としての役割を果たしていたが、荷さばき所の老朽化が進行していた。
- このため、補助用地と他の漁港の単独用地を交換して用地を確保し、荷さばき所と食堂及び直売所の一体的な複合施設を整備した。
- 年間約10万人の利用客が訪れ、観光客の更なる増加や水産業の振興に寄与している。



背景

- 都屋漁港では、定置網体験漁業やセリ見学、食堂や直売所等の観光による漁港の活性化に取り組んでおり、観光客や都市住民との交流や共生の場として機能していた。
- 村内唯一の漁港であり水産業の中心を担うが、荷さばき所は築40年が経過しており、天井や壁のコンクリートにヒビや破損が発生し、腐食した鉄筋が見えるなど老朽化が進行していた。

有効活用の内容

- 荷さばき所と食堂及び直売所の一体的な複合施設（2階建て）を、老朽化した荷さばき所が立地していた用地に整備。
- 整備にあたり食堂及び直売所の一部が補助用地に配置されるため、用地交換が必要であったが、都屋漁港内での交換が困難であったため、泡瀬漁港の単独用地との用地交換を実施した。
- 直売所では鮮魚、刺身、惣菜等を販売しており、売上は順調である。（ただし、令和2年度は新型コロナの影響により落ち込んでいる。）

活用した漁港施設	漁港施設用地（補助用地である都屋漁港の荷さばき所用地及び道路敷と単独用地である泡瀬漁港の船舶保管施設用地を交換）
実施時期	平成28年度
実施主体	読谷村漁業協同組合
活用した事業	防衛施設周辺民生安定施設整備事業
実施した手続き	用地交換、占用許可、漁港施設用地利用計画変更

都屋漁港



効果

- 食堂及び直売所における来客者数については、整備前（H28年度）の約6万人に対し、整備後（H29年度）では約1.7倍増の約10万人となっている。現在も10万人前後で推移している。
- 直売所及び食堂での販売・食材として使用する水産物を仕入れるため、買い支えとして機能、魚価が安定化に寄与している。
- 当地区は県内最大の定置網漁が営まれており、近年では、定置網を利用した漁業体験やダイビングを目的とした観光客で賑わっている。